

呉と太平洋戦争

平和産業港湾都市へ

昭和25(1950)年、旧海軍施設を平和産業へ転換することを目的とした**旧軍港市転換法**が、制定されました。

海軍の施設があった場所に、企業を誘致するなどし、呉は平和産業港湾都市として歩んでいくこととなります。

そして①業・鉄鋼業をはじめとした「ものづくり産業」が集まる臨海工業都市として発展し、広島県の産業を支えました。



▲日本船籍史上最大のタンカー「日精丸」

旧呉海軍工廠の施設・設備・人材によって呉市の産業は成長していったのね～。



▲歴史の見える丘から見た現在の呉港の風景

旧呉海軍工廠の施設は、現在も造船業や、鉄鋼業の施設として利用されているんじゃ!



じつぶつ かた せん そう
◆実物が語る戦争

太平洋戦争末期、日本の戦況は悪化し、日本軍は特攻作戦を繰り返しました。特攻で戦死した多くが、20歳前後の若い人たちでした。

1.人間魚雷「回天」



▲「回天」十型(試作型)

水中を進む爆弾である②をもとにした兵器で、一人が乗り込み操縦をし、目標とする艦艇に体当たりをする特攻兵器です。



▲塚本太郎大尉

搭乗員だった塚本太郎大尉は、出撃前に遺言として自分の音声を録音しました。その肉声を大和ミュージアムで聞くことができます。

2.零式艦上戦闘機



▲零式艦上戦闘機六二型

「零戦」とよばれる航空機で、日本海軍の主力戦闘機でした。優れた性能を持っていましたが、戦争末期になると爆弾とともに機体ごと③する特攻に出撃していきました。



展示している機体は、飛行中にエンジントラブルで琵琶湖に不時着したもので、昭和53(1978)年に引き揚げられた実物なんじゃ!

★学習ポイント★

特攻作戦とはどのような作戦なのか調べてみよう。